

指定管理者制度活用事業 評価シート

1. 基本事項

施設名称	川崎市藤子・F・不二雄ミュージアム	評価対象年度	平成30年度
事業者名	株式会社藤子ミュージアム 代表取締役 伊藤 善章 東京都新宿区西新宿6丁目22番1号	評価者	市民文化振興室長
指定期間	平成23年7月15日～平成33年3月31日	所管課	市民文化局市民文化振興室

2. 事業実績

※[]内は平成29年度(平成29年4月1日～平成30年3月31日)実績

利用実績	<p>平成30年度総入館者数:428,655人〔前年:418,297人〕</p> <p>【内訳】</p> <p>大人・大学生 287,697人 67.1%〔前年:283,260人 67.7%〕</p> <p>高校生・中学生 13,567人 3.2%〔前年: 11,634人 2.8%〕</p> <p>こども 90,489人 21.1%〔前年: 86,301人 20.6%〕</p> <p>無料入館者 36,902人 8.6%〔前年: 37,102人 8.9%〕</p> <p>うち外国人入館者数 84,815人、19.8%〔前年: 81,355人、19.4%〕</p> <p>(※無料音声ガイド「おはなしデンワ」に基づく集計)</p>
収支実績	<p>1 指定管理事業</p> <p>収入 514,093,490 円〔前年:463,682,805 円〕</p> <p>支出 471,576,269 円〔前年:463,516,875 円〕</p> <p>→収支決算 42,517,221 円〔前年: 165,930 円〕</p> <p>2 自主事業収支</p> <p>収入 296,832,058 円〔前年:307,481,728 円〕</p> <p>支出 234,055,996 円〔前年:243,361,281 円〕</p> <p>→収支決算 62,776,062 円〔前年:64,120,447 円〕</p> <p>3 当期収支差額</p> <p>105,293,283 円〔前年:64,286,377 円〕</p> <p>4 次期繰越額</p> <p>935,250,332 円〔前年:829,957,049 円〕</p> <p>※うち400,000,000円はH23藤子プロからの寄附金</p>
サービス向上の取組	<p>●平成31年1月に増築棟(藤子プロが市に寄贈)が完成し、多目的スペースを設置するとともに、スタッフ用の休憩室等を充実した。また、同月にみんなのひろばの大規模なリニューアル工事を実施し、壁面には「ボールころころ大騒動」、ひろばの中央には五分の一サイズの「のび太の家」の模型、窓際にはフォトスポットとなる「ギオンdeパチリ」を設置した。</p> <p>○定期的に展示の更新や各種キャンペーンを実施するとともに、季節に合わせたイベントを行ったほか、誕生日月の入館者に対して特別ステッカー等を配布したり、ハロウィンやクリスマスの季節に合わせた装飾等により、写真撮影スポットを創作した。</p> <p>自主事業</p> <p>■ミュージアムオリジナル玩具(ガシャポン)・ブリクラの販売</p> <p>玩具の新作を販売した。</p> <p>■音声ガイド(おはなしデンワ)の提供</p> <p>作品を鑑賞しながら理解を深められるよう、4歳以上の全来館者に対し作品の説明やエピソードを収録した音声ガイドを無料貸与した(大人用のほか子ども向けも用意。外国人向けには英・中・韓の3カ国語で提供)。お客様に使いやすいよう平成29年1月に本体を軽量、コンパクト化し、展示替え等に合わせた内容の更新を行った。</p> <p>■包装菓子等の販売</p> <p>3階「はらっば」においてミュージアムオリジナルのお土産販売を行ったほか、夏場は飲み物等を販売した。</p> <p>その他</p> <p>行政財産の目的外使用として「藤子・F・不二雄ミュージアム製作委員会」が運営しているカフェ・ショップと連携して、広報や案内を実施した。</p> <p>■ミュージアムカフェ(参考)</p> <p>キャラクターにちなんだオリジナルメニューを揃えたカフェを営業し、各種フェアや季節毎の限定メニューなど工夫を凝らした新メニューを考案し提供した。</p> <p>■ミュージアムショップ(参考)</p> <p>オリジナルアイテムが豊富なグッズショップを営業し、各種フェアに合わせて新アイテムを取り揃えた。</p>

3. 評価

※●は新規事項、○は継続事項

分類	項目	着眼点	配点	評価段階	評価点	
利用者満足度・事業成果	利用者満足度	利用者満足度調査を適切に実施しているか	8	5	8	
		利用者満足度は向上しているか		(H29 4)		
		調査結果の分析を行い、満足度向上のための具体的な取組に反映しているか		(H28 4)		
	事業成果	事業実施による成果の測定が適切に行われているか	6	4	4.8	
		当初の事業目的を達成することができたか		(H29 4)		
	魅力の向上	川崎市の魅力の増進に寄与しているか	6	5	6	
	(評価の理由)					
	<p>【利用者満足度】 ●アンケートでの新たな遊び場に対する要望等を踏まえ、2階みんなのひろばを開館以来初めて大規模なりニューアルを行い、平成31年1月にリニューアルオープンした。 ●様々な企画展の要望等を踏まえ、平成31年2月からは、新たな取組として、「原画で読もう！今月の1話」という展示を開始し、全て原画で1話を全ページ鑑賞できる体験がとても好評を得た。 ○お客様アンケート(2,008枚)、催事期間ごとに出口調査(755件)を継続的に実施し、これらの情報をスタッフ全員で共有するとともに運営に反映させている。キャラクターへの愛情を持った、展示、カフェ、ショップに関する好意的で前向きなご意見を多数いただいている。また、ミュージアムに関する情報源については、友人・知り合いからの口コミ、HP、SNSによるものが約8割と利用者満足度を反映したのとなっている。満足度については、5点満点中平均で企画展4.49、シアター4.4、写真撮影スポット4.54となっており、いずれも高い満足度となっている。 ○アンケートや出口アンケートの結果から、来館回数や来館者のより詳細な情報の入手方法、来館に当たって楽しみにしていること、ショップ、カフェなどに対する要望など来館者の動向・ニーズを把握するとともに、ホームページやSNSで積極的に最新情報を発信した。</p>					
	<p>【事業成果】 ○展示室Ⅰでは新たなカラー原画を中心に常時42点の展示を行った。開館7周年記念企画として、夏休み期間中写真撮影を可とし好評を得た。 ●平成31年2月からは、新たな取組として、「原画で読もう！今月の1話」という展示を開始し、全て原画で1話を全ページ鑑賞できる体験がとても好評を得た。(再掲) ○展示室Ⅱでは、平成30年1月から引き続き原画展「キテレツ大百科×ドラえもん 江戸時代の発明と未来のひみつ道具」を3期に渡って開催した。また、開館7周年記念企画として、夏休み期間中写真撮影を可とした。平成31年1月からは、展示室Ⅱの一角を「Fシアター作品紹介コーナー」とし、映像作品と連動した展示を実施した。 ○ホームページやSNSから情報を得る入館者が多いことを踏まえ、3種類のSNSを活用し、各媒体にあわせて掲載画像を変更するなどの工夫をしながら、ミュージアムをはじめ、生田緑地や市・区など地域の話題・出来事等を毎日発信するホームページブログ及び公式SNSから、最新の情報配信を実施している。(平成31年3月末Facebookの「いいね」数は約31,000〔前年30,000〕、Twitterのフォロワー数は約26,000〔前年22,000〕、Instagramのフォロワー数は約18,000〔前年10,000〕)</p>					
<p>【魅力の向上】 ●みんなのひろばでは、大規模なりニューアルを実施し、新たに、壁面には「ボールころころ大騒動」、ひろばの中央には五分の一サイズの「のび太の家」の模型、窓際にはフォトスポットとなる「ギオンdeパテリ」を設置した。 ●平成30年8月27日～9月3日の7周年記念祭期間には、開館時間を20時まで延長し、新たに通常の入場回に加えて17時からの入館回を設け、初めて夜間営業を行うとともに、はらっば(屋外)で過去のシアター作品を上映する星空シネマの開催、おみこしのイベント等を実施、来館者が楽しめる工夫を行った。 ●小田急電鉄株式会社と調整、連携して、ミュージアムの最寄駅となる小田急線登戸駅において、平成31年2月26日からドラえもんのキャラクターによる装飾を実施し、「ドラえもんたちのいるすこしふしぎな駅」をコンセプトに、「ドラえもん」のまんがの世界に入り込んだような空間を演出した装飾を実施した(小田急電鉄の事業、藤子ミュージアムは監修)。この話題がテレビやSNSで幅広く取り上げられた。</p>						

分類	項目	着眼点	配点	評価段階	評価点	
収支計画・実績	効率的・効果的な支出	計画に基づく適正な支出が行われているか	8	3 (H29 3) (H28 3)	4.8	
		支出に見合う効果は得られているか				
		効率的な執行等、経費削減の具体的な取組は為されたか				
	収入の確保	計画通りの収入が得られているか	6	5 (H29 5) (H28 4)	6	
		収入増加のための具体的な取組が為されているか				
	適切な金銭管理・会計手続	収入と預かり金等を区別し、適切に管理を行っているか	6	4 (H29 4) (H28 4)	4.8	
		事業収支に関して適正な会計処理が為されているか				
	(評価の理由)					
	<p>【効率的・効果的な支出】 ○入館者数は前年度比約102%で、指定管理事業において約4,200万円の黒字となっており、事業を行うにあたって、必要な経費を支出できている。</p>					
<p>【収入の確保】 ○自主事業の収入として、引き続きミュージアム広告へ協力していただける事業者から協賛をいただくとともに、協賛額の増を図った。 ○目的外使用許可により別途運営しているミュージアムショップ・カフェについて、施設側でショップ・カフェ関連の問い合わせ対応を多数行っていることや、魅力あるミュージアム運営がショップ・カフェの利用を促進させていることから、ミュージアム製作委員会等から給与負担金や展示物負担金を得ている(給与負担金…給与手当の1/2相当額 展示物負担金…展示替えに係る費用の1/2相当額)。 ○自主事業においては、音声ガイド(おはなしデンワ)の協賛は一旦終了したものの、その他の協賛金、図録の販売、ガシャポン、プリクラ、どら焼きや川崎銘菓煎餅包装菓子の販売取組もあり、約6,200万円超の黒字となるなど、入館料以外での収入源を確保し、安定した事業運営に寄与している。</p>						
<p>【適切な金銭管理・会計手続】 ○税理士の有資格者を職員として配置するとともに、会計参与(税理士)のアドバイスを受けながら処理しており、適切かつ厳格なチェック体制のもと金銭管理・会計手続を行っている。</p>						

分類	項目	着眼点	配点	評価段階	評価点
サービス向上及び業務改善	適切なサービスの提供	指定管理業務や自主事業が仕様書や事業計画等に基づいて適切に提供されたか	8	5 (H29 5) (H28 5)	8
		基本理念等に基づき、適切なサービスが提供されたか			
		利用者への情報提供を適時かつ十分に行っているか			
		サービスの利用促進への具体的な取組が為されているか			
		新規及びリピーター確保に向けた付加サービスの取組が為されているか			
	業務改善によるサービス向上	実施計画と実際のサービス提供に「ずれ」が生じている場合、原因究明に必要な取組が為されているか	6	4 (H29 4) (H28 4)	4.8
		業務改善が必要な場合に、現状分析、課題把握、改善策の検討と実施が行われているか			
		業務改善の取組によって具体的な効果があらわれたか			
	利用者の意見・要望への対応	利用者ニーズの把握に努め、それを事業や管理に反映させる取組が為されているか	6	4 (H29 4) (H28 4)	4.8
		意見・要望の収集方法は適切だったか(十分な意見・要望を集めることができたか)			
		利用者からの苦情や意見に対して、迅速かつ適切に対応しているか			
	地域貢献・他施設との連携	地域や生田緑地の施設等との連携は適切に実施されたか	4	5 (H29 5) (H28 5)	4
(評価の理由)					
<p>【適切なサービスの提供】 ○ゴールデンウィーク期間中、夏休み期間中のほか、各休み期間、シルバーウィーク、中国の国慶節の期間においては、定例火曜日の休館日においても開館し、利用者ニーズに対応した、館の運営を行っている。 ○84,815人の外国人入館者に対応するため、3か国語(英中韓)館内案内リーフレットの配布、無料音声ガイドの貸出を行うとともに、Fシアターでの短編映像に英語の字幕を追加した。 ○展示物の解説を聞くことができるガイドを入館者に無償で貸し出すほか、聴覚障害者の方にも、展示を深く楽しんでいただけるよう、解説内容を文字起こした“読むガイド”を日本語(おとな・こども)、中国語、英語、韓国語版を用意した。 ○外国人から問い合わせの多い周辺の飲食店情報マップの作成・配布や、チケット購入方法がわからず直接来館した人向けの多言語版のチケット購入方法チラシの配布を行っている。 ●平成30年8月27日～9月3日に実施した7周年記念祭期間に、通常の入場回に加えて17時からの入館回を増設し、初めて20時までの開館を行い、屋外はらっぱにおいて過去のFシアター作品を上映した星空シネマの開催やおみこしイベントを実施するなど、リピーター確保に向けた取組を実施した。</p> <p>【業務改善によるサービス向上】 ●お客様へのホスピタリティ、一層のサービス向上に向け、スタッフのバックヤードの休憩室、更衣スペースの充実を図るため、平成31年1月に増築棟を整備した。 ○特に来館者数の多い中国でのチケットの購入をしやすくするために、Fliggyの仕組みを利用した中国でのオンライン販売、ローソン店舗を利用せず入館が可能となるQRコード方式の入館チケットのオンライン受付を継続実施した。</p> <p>【利用者の意見・要望への対応】 ●海外からの利用者等のニーズなどを踏まえ、市と調整し、Wifi環境を平成31年1月に整備した。 ○アンケート(2,008件)等で寄せられた来館者の意見を踏まえ、カフェ・ショップ運営事業者と共有し、新メニューや新商品の開発につなげ、総体としてミュージアムの魅力向上につなげた。 ○アンケート等の結果から、来館回数や来館者のより詳細な情報の入手方法、来館に当たって楽しみにしていること、ショップ、カフェなどに対する要望など来館者の動向・ニーズを把握するとともに、ホームページやSNSで積極的に最新情報を発信した。</p> <p>【地域貢献・他施設との連携】 ○HPの公式ブログに生田緑地ばら苑情報や、生田緑地スタンプラリーの情報を掲載するとともに、関連HPを案内して、周辺の情報提供の拡充を行った。 ○地域と密着した身近なミュージアムとなるよう、地元商店会の夏祭りや区民祭に出店した。 ○市と連携し、市主催の川崎市フラッグフットボール交流大会を「藤子・F・不二雄ミュージアムカップ」として継続して開催。優勝チームの子どもたちをミュージアムに招待した。 ○より多くの子どもたちに作品を鑑賞してもらうため、市内小学校の団体入館に対し割引制度(500円→400円)を継続して実施した。 ○ミュージアム周辺に設置されているキャラクターのモニュメントや橋の欄干のレリーフなどの清掃を定期的に変更した。 ○カワサキハロウィンでの特別賞の賞品提供を行った。 ●市と連携して7月1日の市制記念日に「市民招待デー」を開催し、市民2,098人が訪れた。また、今年度新たに、落選通知持参のお客様へ期間限定でノベルティの配布を告知し、190名に来館いただいた。 ○来館者が周辺地域を訪れてもらえるよう、市と連携して制作したミュージアム周辺地域の周遊マップを設置した。また、新たに英語版マップも設置した。 ○生田緑地にある美術館・博物館と連携し「夏休みスタンプラリー」を実施したことで、生田緑地近隣の回遊性の向上に貢献した。 (夏休みを含む8月末まで実施、約6,000名以上が参加)</p>					

分類	項目	着眼点	配点	評価段階	評価点
組織管理体制	適正な人員配置	必要な人員(人数・有資格者等)が必要な場所に適切に配置されているか	6	4 (H29 4) (H28 4)	4.8
	連絡・連携体制	所管課との連絡・連携が十分に図られているか			
	再委託管理	再委託先との連携調整が適宜・適切に行われ、業務の履行についても適切な監視・確認が為されているか			
	担当者のスキルアップ	業務知識や安全管理、法令遵守に関する研修が定期的に行われ、スタッフのスキルとして浸透しているか	2	4 (H29 4) (H28 4)	1.6
	安全・安心への取組	事件・事故、犯罪、災害から利用者を守ることができる適切な安全管理体制となっているか(人員配置、マニュアル、訓練等)	4	4 (H29 4) (H28 5)	3.2
		緊急時に警察や消防など関係機関と速やかに連携が図れるよう、連絡体制を構築し、定期的に情報交換等を行っているか			
	コンプライアンス	個人情報保護、その他の法令遵守のルール(規則・マニュアル等)と管理・監督体制が整備され、適切な運用が為されているか	4	3 (H29 3) (H28 3)	2.4
	職員の労働条件・労働環境	スタッフが業務を適正に実施するための、適切な労働条件や労働環境が整備されているか			
環境負荷の軽減	環境に配慮した調達や業務実施が行われているか	2	4 (H29 4) (H28 4)	1.6	
(評価の理由)					
<p>【適正な人員配置】 ○ミュージアムの基本理念でもある「ホスピタリティ(おもてなし)」を実現するために十分な人員配置を行っている。また、経理業務に税理士資格を持った職員を配置しているほか、学芸員の資格を取得している広報職員が、ミュージアムや作品により精通した職員として展示・企画部門の業務を担当するなど、より良い施設運営を目指した効果的な人員配置を行っている。</p> <p>【連絡・連携体制】 ○所管課との定例会議を月1回実施するとともに、適宜、市担当との打合せを実施し、運営上の課題等に関する共有及び調整を行うなど、より良い施設運営に向けた打ち合わせを年間を通じ行った。</p> <p>【担当者のスキルアップ】 ○職員採用においては、藤子氏及び藤子氏の作品が大好きであることを条件とするほか、徹底したおもてなしの心を持った職員を育てるため、各種マニュアルの充実を図るとともにOJTによる技術研修など様々な教育・研修を実施しており、来館者へ質の高いサービスを提供できている。</p> <p>【安全・安心への取組】 ○事故・災害発生時の対応マニュアルに基づき、12月に多摩警察署、多摩消防署と合同での総合防災訓練を実施するほか、地震、火災、大雨・台風・水害など災害別の避難誘導訓練や、停電時を想定した訓練、消防設備取扱訓練、救急救命講習を実施するなど、多くの来館者を受け入れる施設として毎月多様な訓練・取組を実施した。</p> <p>【環境負荷の軽減】 ○開館時に作品を忠実に演出するために演色性の高い展示用LED照明を採用し、2012年度「省エネ・照明デザインアワード」を受賞したが、継続して省電力化を推進している。 ○ミュージアム設置のガシャポンカプセルはメーカーで回収し、再資源化を行っている。 ○屋上に太陽光発電装置を設置し、館内での消費電力の一部を発電によって賄っている。</p>					
適正な業務実施	施設・設備の保守管理	安全な利用に支障をきたすことのないよう、施設・設備の保守点検や整備等を適切に実施しているか	18	4 (H29 4) (H28 4)	14.4
	管理記録の整備・保管	業務日誌・点検記録・修繕履歴等が適切に整備・保管されているか			
	清掃業務	施設内及び外構の清掃が適切に行われ、清潔な美観と快適に利用できる環境を維持しているか			
	警備業務	施設内及び敷地内の警備が適切に行われ、事件・事故・犯罪等の未然防止に役立っているか			
	外構・植栽管理	外構の植栽を適切に管理(草刈、剪定、害虫駆除等)しているか			
	備品管理	設備・備品の整備や整頓、利用者が使用する消耗品等の補充が適切に行われているか			
(評価の理由)					
<p>○施設・設備の保守管理については、来館者の安心・安全・快適性を確保するとともに効果的・効率的な施設の維持管理を行うため、各種設備のマニュアルのほか中長期修繕計画なども参考に維持管理計画に基づき実施している。また、空調設備など使用頻度の高いものは設備の仕様以上に清掃を行っている。</p> <p>○清掃業務・警備業務・植栽管理など施設・設備の保守管理業務については、専門業者に再委託し適正に実施され、来館者が快適に過ごせるよう施設を維持している。館外の落ち葉等の清掃に当たっては、桜の花びらや落ち葉を使い、キャラクターを描き、来館者へ基本理念である「遊びココロ」による演出を行っている。</p> <p>○備品管理については、基本協定に基づき備品台帳を整備するなど適切に管理されており、ミュージアムで使用される備品や消耗品はミュージアムの一体感・雰囲気づくりを考えて用意されている。</p> <p>○衛生面については、常に館内外の「清潔さ」を保つよう配慮されており、高いレベルで管理されている。</p>					

分類	項目	着眼点	配点	評価段階	評価点
----	----	-----	----	------	-----

4. 総合評価

評価点合計	84	評価ランク	A
	(H29 82.4)		(H29 A)
	(H28 82.4)		(H28 A)

5. 事業執行(管理運営)に対する全体的な評価

川崎市藤子・F・不二雄ミュージアムは、「多摩丘陵の恵まれた自然の中で、川崎市ゆかりの漫画家藤子・F・不二雄氏の作品の展示等を通じて、当該作品に込められたメッセージを子どもをはじめとするすべての世代に伝えることにより、市民の文化芸術活動の振興及び本市の魅力の増進に寄与する」ことを目的として設置した芸術文化施設である。

基本理念として、藤子・F・不二雄氏の作品等に込められた「夢」「希望」「勇気」「友情」「大いなる好奇心」そして「人を愛する優しい気持ち」などのメッセージを幅広い世代に伝えていくことを掲げており、具体的には「まんが文化」「遊びココロ」「SFーすこしふしぎー」「コミュニケーション(ふれあい)」「新しい発見」「自然」「ホスピタリティ(おもてなし)」をミュージアムづくりの基本としている。

全体評価にあたっては、これらの目的及び基本理念を踏まえて評価を行う。

平成30年度は指定管理期間の8年目である。

平成23年にドラえもん誕生日である9月3日に開館して以来、毎年、開館記念事業を実施するなど、ミュージアムを大切に運営を継続している。定期的に藤子・F・不二雄の「まんが」に関する企画展示を開催し、藤子プロやチケット販売会社、関連企業とも連携し、広報活動を積極的に行った。

総来館者はここ数年減少傾向であったが、428,655人で前年より約1万人増加している。これは、開館7周年記念における夜間開館やイベントの実施、みんなの広場の大規模リニューアルなどによる、来館者へのおもてなしの心を重視した取組などによる成果である。また、全来館者数の約20%が海外からの来館者となっており、過去最高の84,815人に来館いただき、藤子氏の作品世界を体感していただくミュージアムとして、国内外への本市の魅力発信に大きく貢献している。

また、地元商店会の夏祭りや区民祭への出店、本市の子どもが参加するスポーツ大会へ協力するなど、地域との連携にも取り組んでいる。

指定管理業務としては、主にミュージアムの展示企画業務、施設運営業務、維持管理業務、その他管理運営に必要な業務があるが、各々の分野において、より良いミュージアムづくりを行っている。

○展示企画業務

平成30年1月から引き続き原画展「キテレツ大百科×ドラえもん 江戸時代の発明と未来のひみつ道具」を3期に渡って開催した。平成31年1月から展示室Ⅱの一角を「Fシアター作品紹介コーナー」とし、映像作品と連動した展示や、平成31年2月から「原画で読もう！ 今月の1話」の展示を新たな取組として実施するなど、幅広い世代が「まんが世界」の楽しさを感じてもらえる企画を年間を通して実施した。

○施設運営業務

指定管理事業において適正に収支状況を把握し、収入の確保に努め、昨年に引き続き黒字収支となった。また、利用者ニーズに応じた運営を行うとともに、利用者からの意見を踏まえ業務改善を行うなど、より良いミュージアム運営に向けた取組を進めている。

○維持管理業務

各種設備点検や各種訓練等を確実に実施し、来館者が多い施設として危機管理意識を高く持ち、点検・訓練を行うとともに、安心して来館できる施設の維持に努めている。また、清掃など衛生面についても全体として高い水準で業務を遂行できている。

以上のことから、平成30年度の全体評価としては、持続的・安定的な運営を行うとともに、引き続き質の高いサービスを来館者に提供しており、適正に指定管理業務を実施することができたと言える。

6. 来年度の事業執行(管理運営)に対する指導事項等

①収支については、指定管理事業及び自主事業ともに継続して黒字を確保しており、当期の繰越金を次期以降の事業資金として充当できるよう、安定した事業運営が実施できていると考える。国内外からの来館者数増に向けた取組や、引き続き、収支計画を踏まえた効果的・効率的な執行、収入の確保に取り組むこと。

②2年後に開館10周年を迎える。その先の10年につながる、今後のミュージアムの持続的・安定的な運営に向け、さらに利用者満足度や利用者のニーズを把握・分析しながら、引き続き効果的な手法を取り入れ、ミュージアムの魅力をより多くの方々に感じてもらうよう、リピーターの確保や観光客の入館に繋がる取組や地域の方々に愛着を感じてもらえるような取組に努めること。

③東京2020オリンピック・パラリンピック開催を契機に、パラムーブメントの理念を踏まえ、国内外問わず本市の魅力発信拠点となるよう、本市の広報・観光担当課とも密接に協力・連携するとともに、指定管理者ならではのノウハウ及びネットワークを活用し、誰もが楽しめる「まんが文化」をはじめとするミュージアムの魅力を活かした管理運営を行うこと。